千葉県中核地域生活支援センターニュースレター
第１０７号（令和５年８月発行）
ちばの地域福祉

「中核地域生活支援センターの関わりについて」

千葉県 健康福祉部 健康福祉指導課長
始関 曜子

中核地域生活支援センター事業を所管しております、千葉県健康福祉指導課長の始関と申します。皆様におかれましては、日頃から中核地域生活支援センター事業に御理解・御協力をいただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、中核地域生活支援センターが福祉の総合相談窓口として開設されてから本年で20年目を迎えます。この間、生活困窮者自立支援法の制定や、市町村による様々な相談窓口等が整備されてきているところですが、「制度の狭間」の問題を抱える人や複数の生活課題を抱える人などから、延べ140万件を超える相談実績を挙げており、依然として地域の方々や他の相談支援機関に欠かせない中核機関として信頼を得ているものと認識しております。

近年では、社会福祉法の改正により市町村内における相談窓口を一本化し、分野を超えた包括的な相談を受け止める「重層的支援体制整備事業」が令和3年度に創設され、本県でも、今年度、7市で実施されているところです。今後、県としては、「地域の総合相談は住民に身近な市町村が担う」ことを前提に、中核地域生活支援センターにおいては、制度の狭間や複合的な課題など、広域的・高度専門性を要する相談支援を中心に実施することとし、市町村相談窓口との連携により地域における重層的な相談支援を構築していくことが重要だと感じております。また、重層的支援体制の整備が進むよう、中核地域生活支援センターを活用し、他市町村での先行事例の紹介やケース検討など実践的な内容を含む研修により、人材育成を図るとともに、各圏域の関係機関と市町村との交流、連携の促進を支援しております。

さらに、昨年度から、千葉県子どもの貧困対策推進計画における施策として、自ら SOS を発信できない困難な状況にある子どもたちの早期把握・支援につなげるべく、県内の5つの高校内で居場所づくりの支援や福祉的な相談対応を中核地域生活支援センターが担う、いわゆる「居場所カフェ」を実施しており、今年度はさらに5校増え、県内の高校10校において実施しております。

このように、地域社会における様々な課題解決に向けて、中核地域生活支援センターは引き続き、市町村や関係機関の皆様と連携を図りながら、相談支援体制の充実・強化を図ってまいりますので、関係機関の皆様には、今後とも御理解と御協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

『まるっと』の地域づくり(習志野圏域)

まるっとは、2018年4月に開設し、習志野市・八千代市・鎌ケ谷市の3市が圏域となります。圏域の人口を合計すると約49万人で、3市とも人口が増加している地域になります。また、3市の真ん中に人口64万人の中核市・船橋市があり、相談や支援についても船橋市との関わりも多くあります。

■定時制高校生応援プロジェクトその後

4年前のちばの地域福祉91号、昨年の99号でもご報告したまるっとの「定時制高校生応援プロジェクト」ですが、その後、形を変えながら発展・継続しています。ご存じの通り、千葉県では昨年度より、県内の定時制高校を中心に「校内居場所カフェ」事業が始まっていますが、まるっとでは4年半ほど前に県のスクールソーシャルワーカー(SSW)より、食事をしていない生徒の相談を受けたことをきっかけに、「校外」での高校生の支援の仕組みを模索し始めました。

■おにぎりカフェの取り組み

初めに取り組んだのは県立船橋高校定時制の生徒の支援です(まるっとの圏域には定時制高校はありません)。SSWが支援が必要と思われる生徒と話し、学校にも了解を得たうえで、高校最寄りのJR東船橋駅前の事務所で、登校前の生徒に、市民団体や船橋市保健と福祉の総合相談窓口さーくると一緒にフードバンク食品等をお渡しする「おにぎりカフェ」という取り組みです(コロナ前はご飯を炊いて自分たちでおにぎりを握らせて、夕食として持たせていました)。その際、お茶を飲みながらお菓子を食べ、生徒と交流して、困った時に相談に乗れる関係づくりをしようと目指してきました。毎回1～3人程度の参加がありますが、活動を開始して4年が経っていますので、卒業して就職した生徒なども時々顔を出してくれます。

■ハイティーンズカフェmarutto

次に、昨年7月より、まるっとの最寄り駅である京成津田沼駅近くのらいふあっぷcollegeの場所をお借りして、同様の取り組みを始めました。習志野や八千代・鎌ケ谷市の生徒は、京成本線と新京成線が利用できる同駅の方が利用しやすいということもあり、地域のボランティアの方とまるっとで運営しています。昨年度は、高校卒業と同時に家を出ることを言い渡されていた男子生徒の支援を行い、卒業と同時にまるっとの法人(ワーカーズコープちば)が運営するシェルターに移り、今後の住まいや仕事を相談しています。

■おとなりカフェ

これら2か所の取り組みを通じて、「校外」の居場所カフェの取り組みにも、「校内」とはまた違った意義があるのではないか？とSSWや関係者の方々と話し合い、今年度、WAM(福祉医療機構)の助成金を申請し、既存の2か所の拡充と、新たに1か所のカフェを立ち上げました。場所は、新京成線高根木戸駅徒歩3分のワーカーズコープちば事務所の隣の場所で、「おとなりカフェ」と名付けました。この取り組みには、教員OBや自治体の非常勤職員が協力し、高校の養護教員部会を通じて、近隣の20近い高校にチラシを配布してくれることになりました。ただ、生徒を紹介するだけでなく、可能な限り支援者が一緒にカフェに来てほしいとお願いしています。

■校外居場所カフェ活動の今後

校外居場所カフェは、定時制や全日制に限らず、どの高校の生徒でも自分が行きやすいカフェに行ける、という長所があります。また、教員やSSWによって紹介されて来る生徒は、何らかの課題を抱えているため、いずれは地域の支援につながってほしいという思いもあります。一方、この間の実感としては、問題を抱える生徒はたくさんいて、このまま“掘り起し”ていくと、支援する側が足りなくなっていくことも心配です。そのため、WAM事業では支援者研修を行いながら、関わってくださる方々を増やしていくことを計画しています。

『くらっち』の地域づくり(市川圏域)

中核地域生活支援センターくらっちです。くらっちは市川市・浦安市全域を対象に令和5年4月から中核地域生活支援事業を行っています。「くらっち(英:clutch)」とは、自動車に使われている動力を伝達し繋げる部品のことです。このクラッチのように、困りごとや生きづらさを抱えた方を、支援や地域に“つなげ”たいという思いから名付けました。

◆678プロジェクト

くらっちでは『若者サポートプロジェクト678(ろくななはち)』という通称“678プロジェクト”に参加しています。義務教育を終えて高校に通う16～18才の子どもが対象となっており、この年代が抱える様々な問題(生活困窮や家族の病気・障害の問題、子どもの孤立など)を解決しようと市川市・浦安市地域の関係機関が集まって立ち上がりました。支援の在り方としては地域の高校と連携をしながら、子どもたちの生活の基盤となる家庭を支援するとともに、進路変更の必要が生じた場合に、地域の適切な支援につなぐサポートをしていきます。

若者サポートプロジェクト

678

ろくななはち

◆校内居場所カフェ『りりいふカフェ』

678プロジェクトの一貫として、2021年から市川工業高校で『りりいふカフェ』という校内居場所づくりの取り組みをしています。市川工業高校は全日制と定時制の県立高校で、主に定時制の生徒を対象に月1回で開催をしています。カフェでの生徒たちの過ごし方は、ゲームをしたり、ご飯を食べたりなど自由に過ごしています。また、軽音部に所属している生徒によるバンド演奏など運営スタッフだけではなく、生徒も一緒になってカフェを盛り上げてくれることも増えてきました。そのため、カフェ設立当初に比べて、多くの生徒が毎月参加しております。『りりいふカフェ』では居場所づくりだけではなく、生徒への食品配布もおこなっております。近年、678プロジェクトの関係機関だけではなく、市川工業高校の先生方や地域の人たちなど多くの人に取り組みを知ってもらえる機会が増え、ボランティアに参加したいという声を上げてくれる人も徐々に増えております。今後も学校や地域、参加してくれる生徒たちと一団となって『りりいふカフェ』を盛り上げていきます。

りりいふカフェ概要

開催場所：市川工業高校
開催時間：20 時～21 時頃

ご興味がある方や詳細を聞きたい方はこちらにご連絡ください！
clutch@chiraku.com

◆カフェくらっち

くらっちでは市川圏域の人を対象に、居場所カフェ『カフェくらっち』を月１回のペースで開催しています。ここでは子どもや大人、高齢の方や障がいのある方、その家族など誰でも自由に過ごせる場所を提供しています。おしゃれなカフェ空間の中でコーヒーや紅茶を飲みながらほっと一息つくのはいかがでしょうか。

分野横断鉄道［医療］

教育　医療　雇用

国際　消費　住居　司法

千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりすは「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」に基づき令和４年７月１日に開設致しました。日常的にたんの吸引や経管栄養、呼吸器管理などが必要な医療的ケア児者及び重症心身障害児者のご本人・ご家族・支援者の皆様を対象に、相談支援、人材育成、機関連携・協働、地域体制整備、情報収集・発信、権利擁護・虐待防止の６つの機能を担い、千葉県のどこで暮らしていてもあたり前の暮らしができるよう、千葉県全域を見守り支援を行うことを目指しています。

現在、重点を置いている活動の1つは「医療的ケア児等の支援に関する協議の場の設置推進と活性化」であり、各市町村の協議の場では災害支援に関する事柄が喫緊の課題として取り上げられています。災害時に誰も取り残されない地域を目指し、ぽらりすも努力していきます。

また、人数や実態把握のため実態調査を実施している市町村が増えています。ご本人・ご家族の皆様はお手元に調査票が届きましたら、地域が良い方向に向いていく事を信じて、回答のご協力をお願いいたします。支援者の皆様はお一人でも多くの方にご回答いただけるようご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

医療的ケア児等コーディネーター　佐藤

千葉県医療的ケア児等支援センターぽらりす
千葉リハビリテーションセンター2F
〒266-0005　千葉市緑区誉田町 1-45-2
9：00～17：00　（平日）
電話：043-291-1831
Mail：polaris@chiba-reha.jp
センター長：石井
医療的ケア児等コーディネーター：景山、山野木、土屋
栗林、大矢、佐藤

司法　住居　消費　国際

雇用　医療　教育　動物

ちば・地域発　～県内ア・ラ・カルト～

中核地域生活支援センター大会 in2023「相談支援って何？～相談支援の根っこを考える～」

～この時代と社会状況のなかで私たちが「ともに前を向く」ために～

⊙日時：2023 年8月21日(月)13:00～17:00　⊙会場定員200名/オンライン併用
⊙会場：千葉県社会福祉センター2階研修室(千葉市中央区千葉港 4-5)　⊙参加費：無料

❖2022 年度千葉県中核地域生活支援センター事業活動報告
❖基調講演『相談支援の根っこを考える』講師：同志社大学社会学部教授・日本社会福祉学会会長　空閑浩人氏
❖パネルディスカッション『私が考える総合相談・相談支援』
登壇者①伊藤英樹氏/井戸端元気(木更津市)②梅澤岳氏/浦安市社会福祉課課長③岡田まゆみ氏/安房地域生活支援センター
④前北海氏/NPO 法人多様な学びプロジェクト⑤渋沢茂/千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会会長
コーディネーター：朝比奈ミカ氏/市川市よりそい支援事業がじゅまる＋・市川市生活サポートセンターそら
コメンテーター：空閑浩人氏

《お問い合わせ先：中核地域生活支援センター長生ひなた（大会事務局）℡ 0475－22－7859》

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
事務局：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市大原8927－2
TEL:0470-60-9123　FAX:0470-60-9124
編　集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市ロ838
TEL:0479-60-2578　FAX:0479-60-2579